

企画展 養育院の「院長さん」 渋沢栄一 父となり祖父となり曾祖父となり 開催のご案内

渋沢栄一は多数の企業・経済団体などの設立・育成に関わる一方で、教育・福祉・医療など数多くの社会事業にも関わりました。その中で、最も長く関与した事業は、東京の「養育院」です。栄一にとって、養育院は社会事業に関わった出発点であり、その後の活動の基盤でした。

養育院は、子供から老人まで、さまざまな理由で生活が困難となった人々を保護し、治療や教育などを行うための福祉施設でした。栄一は養育院と明治7年（1874）から関わるようになり、明治12年（1879）から亡くなる昭和6年（1931）までの52年間にわたり、院長（時期により常設委員長）を務めました。

栄一は養育院で保護された人々の中でも、貧困・病気・孤児・棄児などさまざまな事情を抱えた児童たちをとりわけ気にかけていました。栄一は保護児童たちへ、自身は「父」や「祖父」、「曾祖父」であると語りかけ、また児童たちからは親しみを込めて「院長さん」と呼ばれていました。

養育院長として栄一が果たした役割は多岐にわたりますが、本展では特に保護児童たちとの関係について取り上げながら、「院長さん」と慕われた栄一の活動と想いをご紹介します。

是非ご見学いただき、周知についてご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※本展示についてのお問い合わせは、メールもしくは電話でご連絡ください。

展示概要

名称	企画展 養育院の「院長さん」 渋沢栄一 父となり祖父となり曾祖父となり		
主催	公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢史料館		
後援	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター		
会期	2023年3月18日（土）～5月28日（日）		
開館時間	10時～16時（最終入館 15時30分）		
休館日	毎月曜日、3月22日（水）、5月2日（火）、5月9日（火） ※予告なく予定を変更する場合があります。		
会場	渋沢史料館 企画展示室 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 2-16-1（飛鳥山公園内）		
入館料	一般 300円、小中高生 100円 飛鳥山3つの博物館共通券 一般 800円、小中高生 320円		
アクセス	JR 京浜東北線	王子駅南口下車	徒歩 5分
	東京メトロ南北線	西ヶ原駅下車	徒歩 7分
	都電荒川線	飛鳥山停留場下車	徒歩 4分
	都バス	飛鳥山停留所下車	徒歩 5分
	北区コミュニティバス	飛鳥山公園停留所	徒歩 3分

展示構成

- 第一章 養育院と渋沢栄一のあゆみ
- 第二章 「院長さん」の活動・想い
- 第三章 生涯、「院長さん」として

サブタイトルについて

サブタイトルは大正 15 年（1926）4 月 13 日に東京市養育院巣鴨分院を訪れた栄一が児童らに向けておこなった訓話「新学期に際して児童に望む」中の一節です。栄一は敷地内に幼稚園・小学校を持つ児童専用の分院である巣鴨分院でたびたび訓話を行い、その中で、自身を「父」などとし、児童たちを実の子や孫のように思っていると繰り返し語りかけました。これは、遺児・迷児・棄児など親を失った者が多かった養育院で暮らす児童たちに寄り添うとともに、自身の援助を一時のものとし、永続的な効果をもつものとしたという想いも込められ、発せられた言葉でした。「父となり祖父となり曾祖父となり」は、児童たちが社会で自立し、生活していくことができるようになるために力を尽くし、また 30 代から 90 代に至るまで、半世紀以上にわたり「院長さん」で在り続けた渋沢栄一を象徴する一節と言えます。

先生方は皆さんをよくすることに骨を折つて下さるし、私は皆さんの父となり祖父となり曾祖父となり親権を行つて行くのであるから決して恥かしくもなく、正々堂々と社会に進んで行くことが出来得る筈である、皆さんは此事をよく自覚しなければならない

（渋沢栄一「新学期に際して児童に望む」『東京市養育院月報』297 号<東京市養育院、1926 年>より）

主な展示資料紹介

『院長さんの御邸へよばれて』【画像①】

昭和 4 年（1929） 渋沢史料館所蔵

栄一は昭和 4 年（1929）5 月に東京市養育院感化部井之頭学校の生徒を自邸（飛鳥山邸）に招いて園遊会を催しました。井之頭学校では生徒 9 名がこの日のことを記した自筆の作文を製本し、栄一に贈りました。

渋沢栄一「最後」の写真【画像②】

昭和 6 年（1931） 『東京市養育院月報』363 号（1931 年 10 月）より

東京市養育院幹事の田中太郎は、昭和 6 年（1931）9 月 17 日に写真師を連れて飛鳥山邸を訪れ、3 枚の写真を撮影しました。この写真はそのうちの 1 枚です。同年 11 月の栄一の葬儀後、養育院長として撮影に臨んだこれらの写真が、「最後の記念」になったと、穂積重遠（栄一孫）が田中に伝えたとされています。

東京市養育院巣鴨分院での児童の遊戯【画像③】

大正初期カ 渋沢史料館所蔵

大正初期に作成されたと思われる『東京市養育院写真帖』の中の一枚です。巣鴨分院は明治 43 年（1910）に設立された児童専用の分院で、分院内に幼稚園・小学校が併設されていました。写真の遠景中央に見えるのが校舎で、その左は講堂。

東京市養育院巣鴨分院での藪入会【画像④】

昭和 4 年（1929）9 月 13 日 渋沢史料館所蔵

巣鴨分院では、院外で暮らす児童や出院者を招く「藪^{やぶ}入会」が春と秋の年二回催されました。藪入会は親睦を図り、旧情を温める機会であったと同時に、院外で暮らす児童の健康状態を確認する機会でもありました。写真は昭和 4 年（1929）9 月 13 日の藪入会で、食堂にて撮影されたもの。中央右が栄一、左は養育院幹事の田中太郎です。

東京市養育院巣鴨分院改築落成披露会で講演する栄一【画像⑤】

昭和2年(1927)4月29日 渋沢史料館所蔵

栄一は日本よりも慈善事業が根付いていた欧米の制度や施設を大いに参考にしていましたが、自身が慈善について話す時は、その精神を「論語」や「孟子」などの言葉を引き、儒教的な言葉・観念から語りました。この写真には、栄一が同年に揮毫した「博愛之謂仁」(韓愈「原道」より)の額が見えます。栄一はこの「仁」や「愛」を慈善の根本であるとした上で、それだけでは「真に有効な慈善」とはならず、「道理正しく組織的に経済的に」慈善事業を行う必要があると考えていました。

東京市養育院巣鴨分院への最後の訪問【[画像⑥](#)】

昭和6年(1931)6月13日 渋沢史料館所蔵

渋沢栄一の最後の養育院訪問は、昭和6年(1931)6月13日のことでした。栄一は13日を毎月の登院日と定めており、本院に加えて巣鴨分院を訪れ、児童たちに訓話をしました。最後の訪問となったこの日も、栄一は訓話をし、その内容は、国家・社会のために尽くすことは「その身自身の上にも幸福が来る」ことに繋がる、「自己の努力によつて自己を幸福にし、又国家を幸福にするやう心掛けて貰ひたい」というものでした。

渋沢栄一書 待有余而濟人終無濟人之日【[画像⑦](#)】

大正9年(1920)8月 渋沢史料館所蔵

「あま余り有るを待あちて人まを濟ひとはんとせば終つひに人ひとを濟すくふの日無ひけん、暇いとま有るを待あちて(書)読まんとせば必かならずや書しよを読よむの時無ときけん」と読み、栄一が好んで揮毫した言葉の一つです。この言葉の初出は不明ですが、漢字・道德教育のために編まれた中国の処世訓・格言集『増広賢文』収録の一節です。井之頭学校の主務室には栄一がこの言葉を認めた扇面が飾られており、また栄一の死後、社会事業団体が連名で主催した追悼会では、この言葉が絵葉書とされ、記念品として配布されるなど、栄一の社会事業への取り組みの訓戒・象徴的な言葉として認識されていました。

お問い合わせ

本企画展担当：渋沢史料館 清水(学芸員)

E-mail：event0011@shibusawa.or.jp

TEL：03-3910-0005

企画展「養育院の「院長さん」 渋沢栄一 父となり祖父となり曾祖父となり」広報用画像（無料）の提供について

企画展広報用として、資料の画像を用意しております。

是非、本企画展をご紹介くださいますようお願い申し上げます。

ご紹介いただける場合は、別紙「企画展広報用画像掲載申請書」にご記入の上、メールに添付して連絡先までお送りください。

【画像①】

『院長さんの御邸へよばれて』

昭和4年（1929）

渋沢史料館所蔵



【画像②】

渋沢栄一「最後」の写真

昭和6年（1931）9月17日

東京市養育院『東京市養育院月報』363号（昭和6年<1931>）より



【画像③】

東京市養育院巣鴨分院での児童の遊戯

大正初期カ

渋沢史料館所蔵



【画像④】

東京市養育院巣鴨分院での敷入会

昭和4年（1929）9月13日

渋沢史料館所蔵



（次ページへ続く）

【画像⑤】

東京市養育院巣鴨分院改築落成披露会で講演する栄一

昭和2年(1927)4月29日

渋沢史料館所蔵



【画像⑥】

栄一最後の東京市養育院巣鴨分院訪問

昭和6年(1931)6月13日

渋沢史料館所蔵

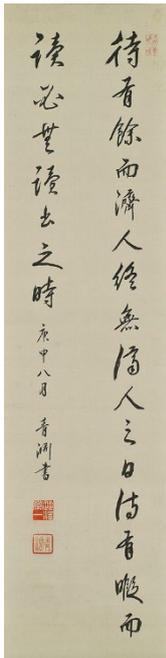


【画像⑦】

渋沢栄一書 待有余而濟人終無濟人之日

大正9年(1920)8月

渋沢史料館所蔵 ※小平忠生撮影



提供画像のサイズについて

各画像は長辺を 2500pixel、240~350ppi 程度の解像度にて準備しております。

企画展広報用画像掲載申請書

送付先
 企画展担当者：渋沢史料館 清水
 E-mail: event0011@shibusawa.or.jp

企画展「養育院の「院長さん」 渋沢栄一 父となり祖父となり曾祖父となり」に関する記事作成のため、以下の資料画像を使用します。

使用にあたり、「ご使用に際しての注意とお願い」を遵守します。

■申請者情報・申請目的

貴社名

部署名

ご担当者名

TEL.

E-mail

媒体名

発行社名
(貴社名と異なる場合)

コーナー名

発行・放送予定日

発行部数

定価

■ご使用希望画像 ご希望の番号に○をつけてください。

- ①『院長さんの御邸へよばれて』 昭和4年(1929) 渋沢史料館所蔵
- ②渋沢栄一「最後」の写真 昭和6年(1931)9月17日 『東京市養育院月報』363号より
- ③東京市養育院巣鴨分院での児童の遊戯 大正初期カ 渋沢史料館所蔵
- ④東京市養育院巣鴨分院での藪入会 昭和4年(1929)9月13日 渋沢史料館所蔵
- ⑤東京市養育院巣鴨分院改築落成披露会で講演する栄一 昭和2年(1927)4月29日 渋沢史料館所蔵
- ⑥最後の東京市養育院巣鴨分院訪問 昭和6年(1931)6月13日 渋沢史料館所蔵
- ⑦渋沢栄一書 待有余而済人終無済人之日 大正9年(1920)8月 渋沢史料館所蔵 小平忠生撮影

■ご使用に際しての注意とお願い

- ・画像のご使用は、本企画展をご紹介くださる場合にのみ許可いたします。
- ・ご利用は1申請につき1回限りとし、ご利用後は必ず破棄してください。
- ・資料名及び渋沢史料館所蔵であることを明記してください。
- ・画像はトリミングせず、全図でご使用ください。
- ・画像に文字などを重ねないようにご使用ください。
- ・基本情報確認のため、入稿前に校正原稿を企画展担当までお送りください。
- ・掲載、放送後に掲載紙(誌)、番組DVD等を1部ご寄贈ください。
 WEBサイトをご利用の場合は、掲載後に該当記事を印刷したものをご寄贈ください。
- ・ご申請後に内容が変更になる場合は、必ず事前にご連絡ください。